

.....
○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をいたします。再開を11時35分からいたします。

午前11時21分休憩

.....
午前11時34分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

休憩前に引き続き、会派代表質問を行います。清風会、8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） 改めまして、おはようございます。清風会の淵上清であります。

私ども清風会は、船越洋一議員、吉見優子議員、小田昭人議員、大浦孝司議員と私、淵上清の5人会派でございまして、国際交流による島の活性化を主体として政務活動を力してまいりました。よろしく申し上げます。

市長、早いものでございまして、比田勝市政誕生後、もう3年目の後期に差しかかりました。次の3月議会では最後の比田勝市政のまとめの予算編成の時期を迎えております。その辺を踏まえまして、ぜひ積極的な姿勢で御答弁を期待いたしております。

なお、私どもは質問時間が窮屈でございますから、答弁は簡略・簡明にお願いいたします。

さて、対馬市に今、大きな流れとなって押し寄せています国際交流について質問します。

まず、私からは、将来展望とその対策についての総括的な、総合的な質問を、続いて、具体的な課題について、同僚議員2名が関連の質問をいたします。したがって、私への答弁につきましては、細部にわたる答弁は不要でございます。結論だけで結構ですので、よろしく申し上げます。

韓国からの海上航路は、馬山・巖原港に始まりまして、幾多の変革を経た後、新たに釜山港から定期航路として開設されてから二十二、三年になりますが、この二、三年の観光客数の増加率は想像以上のうなぎのぼりの状況で、驚くばかりです。韓国からの九州管内への旅客総数のおよそ6割が対馬に来島いただいているそうで、韓国観光客の誘致に躍起になっている他の市町村にとっては、非常にうらやましい現象であろうかと思えます。

この急上昇の要因はと問われて、対馬市での頑張りによるものでありましてと言えるのでしょうか。私は、素直にノーと言いたいです。私の見解は、韓国の海運業者と、それを取り巻くエージェントが、厳しい開設当時に耐えて流れをつくり、さらにその流れに乗って営業努力がなされた結果が、現在の状況に大きく反映されているのではと思うのですが、いかがですか。

いわゆる、対馬市の国際交流を主導したのは韓国サイドで、対馬側はその受け入れ対策にまだ追いついていないのが現状であると言わざるを得ません。言いかえるならば、対馬市の今後の積極的な施策によっては、さらに上の結果をも望める余地がたくさん残されていると言えるわけです。

今、観光客の受け入れ数は、このまま上昇線をたどるのか。はたまた平行線あるいは下降線をたどるのかの重要な時期に差しかかっていると云えます。市長は、その付近をどのような判断をなされているのか、まずはお聞かせください。

その上で、積極的な対策を講じて、国際交流による島おこしをさらに推進していくのか。現状で十分でございますと考えるおられるのかについて、まずは御答弁願います。

重ねて申します。答弁は簡略にお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 清風会、湊上議員の質問にお答えいたします。

簡略ということでございますので、私のほうもできる限り簡略に答えさせていただきます。

対馬市を訪れる観光客数は、昨年、約35万6,000人、ことしは10月末時点で33万4,000人で、40万人に迫る勢いで来島していただいております。このままの状況になった要因といたしましては、議員がおっしゃるとおり、対馬島内の観光関連事業者の皆様と韓国の海運業者、旅行者の方々の企業努力があったことによるものと大変感謝をいたすところでございます。

今後の韓国人観光客の推移見込みをどのように判断しているのかとの御質問であります。議員が最も御存じだろうとは思いますが、平成12年に、対馬・釜山間の国際定期航路の就航をきっかけに、3社体制となった平成24年から急激に増加し、その後も右肩上がりの増加で推移してきました。

今後につきましても、順調な増加を期待しているところでございます。

韓国人観光客誘致による観光産業の拡大は、対馬の主要産業として欠かせない政策と考えております。昨年のユネスコ世界記憶遺産登録もあり、さらに、日韓交流の島をアピールし、引き続き韓国人観光客の誘致活動を行いながら、官民が一体となり、国際交流の島、成熟した観光地を積極的に目指してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 8番、湊上清君。

○議員（8番 湊上 清君） 今や対馬のメイン産業として大きくまだまだ希望の持てる観光産業になりつつあるわけですから、市長もおっしゃるように、ぜひ大きな力を傾注していただきたいと思っております。

そこで、お尋ねは、平成27年に作成された第2次対馬市総合計画によりますと、韓国観光客の受け入れ目標数は、現在から2年後の平成32年に30万人、7年後の平成37年に40万人と計画されています。

私は、2年前の平成28年9月議会において、当時の観光客の動向からして余りにも目標数値

が低いので、上方修正すべきと、一般質問で提言しました。お答えは、前任市長が計画されたこの第2次対馬市総合計画を継承しますという答弁で、聞き入れられておりません。結果は、比田勝港にあらわれましたように、国際ターミナルの待合室の狭隘化、そして、入国審査ブースの少ないことで、また、それをやりかえる。継ぎはぎ継ぎはぎの施設づくりが続いております。やがては、比田勝港をしっかりとしたもの、いま一度計画しなければならない状況に、無駄な投資が何回もなされている現状でございます。

来年度は、厳原港の国際ターミナルの設計がもう既に予算化されまして、発注されるわけですが、この総合計画がそのままであれば、40万人を想定した厳原港の国際ターミナルが計画せざるを得んわけです。総合計画は40万人やけども、設計は70万、80万を目指したものにしますというわけにはいかんです。

ならば、しっかりと目標数値を定めて、そして、官民一体になってそれに向かって状況を整えていくという、そういう形が必要です。さきの質問のときも、受け入れ対策協議会なるものをつくって、官民一体でその辺を一緒になって目標数値を定めて、それに向かったそれぞれの機関の対応を促していくというようにしなければ、対馬市だけでは、この事業は成り立つわけじゃないんですから、しっかりとその辺の組み立てもお願いしたいんですが、まずは、この平成37年、もう今年度は40万を達成できそうですね。それを7年後の40万の数値をそのままに据え置くというのは、余りにも消極的過ぎる。比田勝市政、やる気を見せてください。上方修正の決断をされる気持ちはないか、そのことについてお伺いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 渚上議員御指摘のとおり、既に最終目的であります40万人に迫る勢いで推移をしている状況となっております。

この総合計画につきましては、平成31年度からその進捗状況、達成状況による軌道修正に入っていく予定としているところではございますけども、しかしながら、今おっしゃられるように、既に40万人に迫る勢いで来ているというようなことから、私の思いといたしましては、この現状を踏まえた上で、韓国人観光客の受け入れ目標につきましては、さらに上を目指してまいりたいということを考えておまして、これまでの韓国人観光客の伸びや国際航路の現状等を鑑みますと、32年度に50万人、37年度の長期には60万人という目標を持って取り組んでいく必要があるというふうに、私自身も考えておりますし、この私の考え方を市の職員や関連民間業者の方々にも共通認識を持ってもらいながら、今後の取り組みに生かしていきたいというふうに考えているところでございます。

その上で、先ほども申されましたように、今後、計画そしてまた建築される厳原港の国際ターミナル、そしてまた、比田勝港の国際ターミナルにつきましては、民間の資金を活用したPFI

事業で、これらの増改築を計画してまいりたいというふうを考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 8番、淵上清君。

○議員（8番 淵上 清君） 上方修正は当然のことだろうと思いますし、市長の意欲もよしとしますが、市長、若い割に、いやに遠慮がちですね。この上昇のカーブを見たときに、やはり目標なんですから、目標は必ず達成しなければいけないと、目標の8割達成すれば大成功なんです。そのぐらいの気持ちで、60万ではちょっと腰が引けていますよ。私であれば、80万、100万を目指して、そして60万、70万、80万の実績をつくり上げていく。そのぐらいの気持ちで、ボーイズ・ビー・アンビシャスと言うんです。若者は大志を抱け。若いんですから、やりましょうよ。もう少し元気を出した目標を定めて、がんがんやって、結果が60万になればいいじゃないですか。60万を目指したら絶対そこを達成せにやいかんということじゃないんですよ。もう少し目標は大きなものを目指して、そして民間からの、その目標に向かった対馬市のやる気を見た民間が投資をしていく。そして、全体がグレードアップしていく。そういう姿勢でもう一遍考え直してくださいよ。

時間がありませんから、そこまで言いまして、後段は同僚議員に譲ります。ぜひ、ひとつ元気出してください。終わります。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。清風会、15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 清風会、会派代表の関連質問といたしまして、通告に従い、韓国観光客の不満とその対策について、お尋ねをいたします。

平成11年、釜山・巖原間に国際航路開設がなされ、今年度で20年目を迎えることとなります。この間、海運会社は5社参入しており、旅行会社は20社に上ると聞き及んでいるところがあります。

昨年の入国実績は35万6,000人という急激な伸び率を示しているように見えますが、観光客の多くの方々は、決して対馬の印象はよく思っていないようなところもございます。このことに関して、9月定例会において、私は一部御意見を申し述べたところでありますが、今回は、さらに具体的な事柄について申し上げたいと存じます。

なお、発言の根拠は、現に観光事業に携わっておられる方々及び一般観光客の意見であり、真に今後、対馬の発展を願う思いからのことでもあります。

1つに、旅行社から日本本土の皆様と比較して、対馬の皆様の一部ではありますが、非常に冷たさを感じる場所があります。

次に、2つ目ではありますが、ツアーに初めて参加して島へやってきましたが、自然景観、釣り、登山以外に楽しむところが一つもない。